

DNSへの脅威 ネットワーク編

Matsuzaki 'maz' Yoshinobu

<maz@iij.ad.jp>

権威を持つネームサーバ

- 問い合わせに応じて保持するリソースレコードを応答するだけ
- 状態もほぼ持たない
- ∴ ネットワークからの攻撃も比較的単純
- 基本的にコンピュータ資源への攻撃
 - 大量の問い合わせを送ってみる
 - 何らか制限のある資源を狙い撃ちする
 - 帯域を埋める

応答性能

- 条件ざっくり
 - 今時のハードウェア & OS
 - ちょっと多めのレコード数
- 期待値ざっくり
 - BIND9 50Kqps (数万程度の誤差あり)
 - NSD4 100Kqps(数万程度の誤差あり)
- 単サーバ当たり、これ以上の問い合わせがあると無応答などの事態が発生しうる
 - 問い合わせのIPパケットをざっくり64byteにすると50Kqpsで250Mbps前後のトラヒック

TCP接続数

- DNSではTCPのサポートもMUST [RFC7766]
- TCPの問い合わせにも答えないといけない
 - TCP接続ではサーバ側に状態ができるため、これに対してリソース消費攻撃を仕掛けられる
- UDPの方が性能は出るなので、なるべくUDPで答えられるようにしておく
 - 大きな応答サイズにならないように気をつける
 - EDNS0に対応しておく

帯域

- 帯域が埋まると遅延やパケットロスが発生
 - 攻撃側が防御側以上の帯域を操作できるなら負け
 - DDoS, botnet
- 対応は一般の帯域消費型攻撃と一緒
 - 網への流入点で輻輳が発生していないか
 - 網内の輻輳箇所に至る前に何らかの対策が可能か

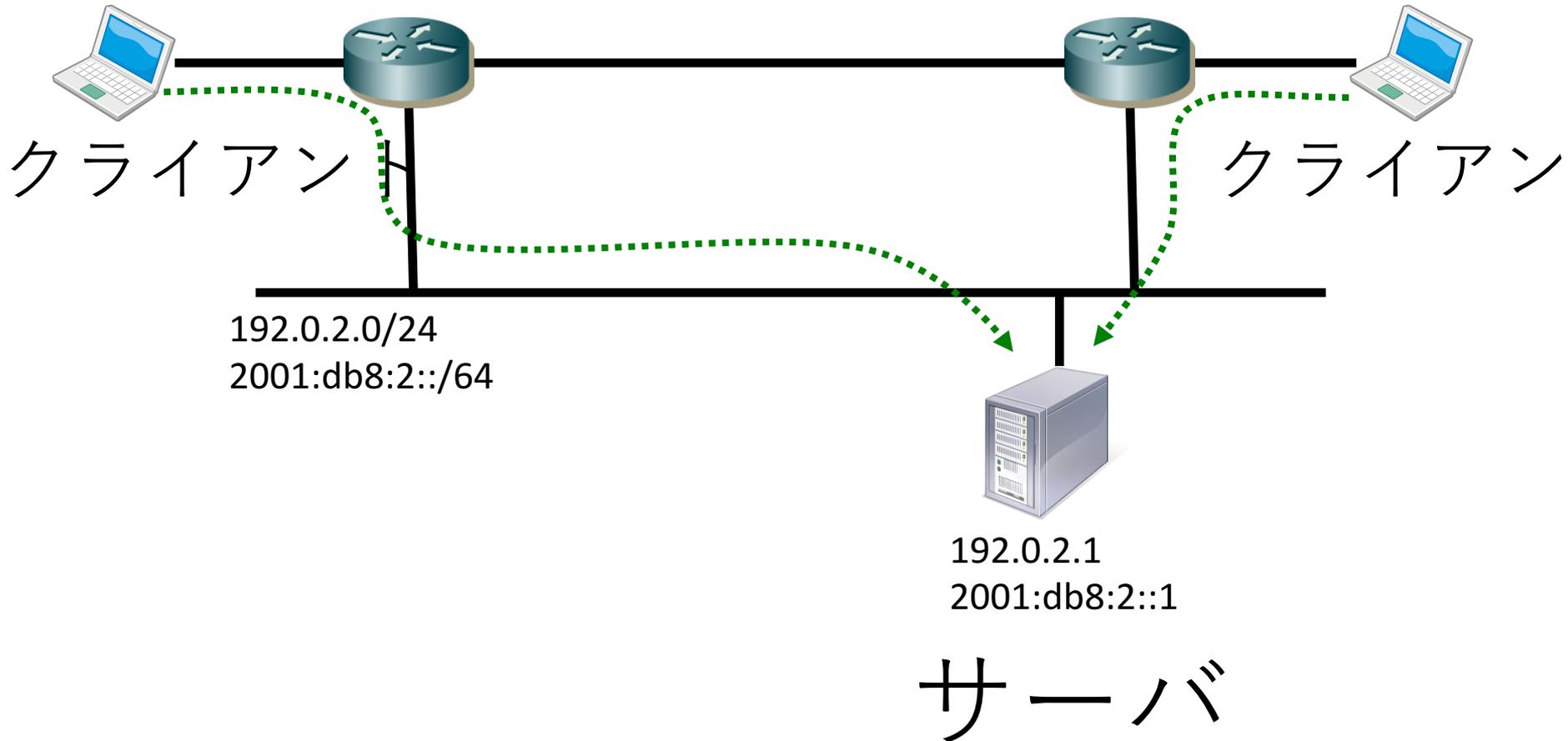
対策

- リソース消費攻撃にはリソース追加防御！
- 応答性能を引き上げる
 - キャッシュサーバ
- サーバを並べる
 - ロードバランサ
 - IP anycast

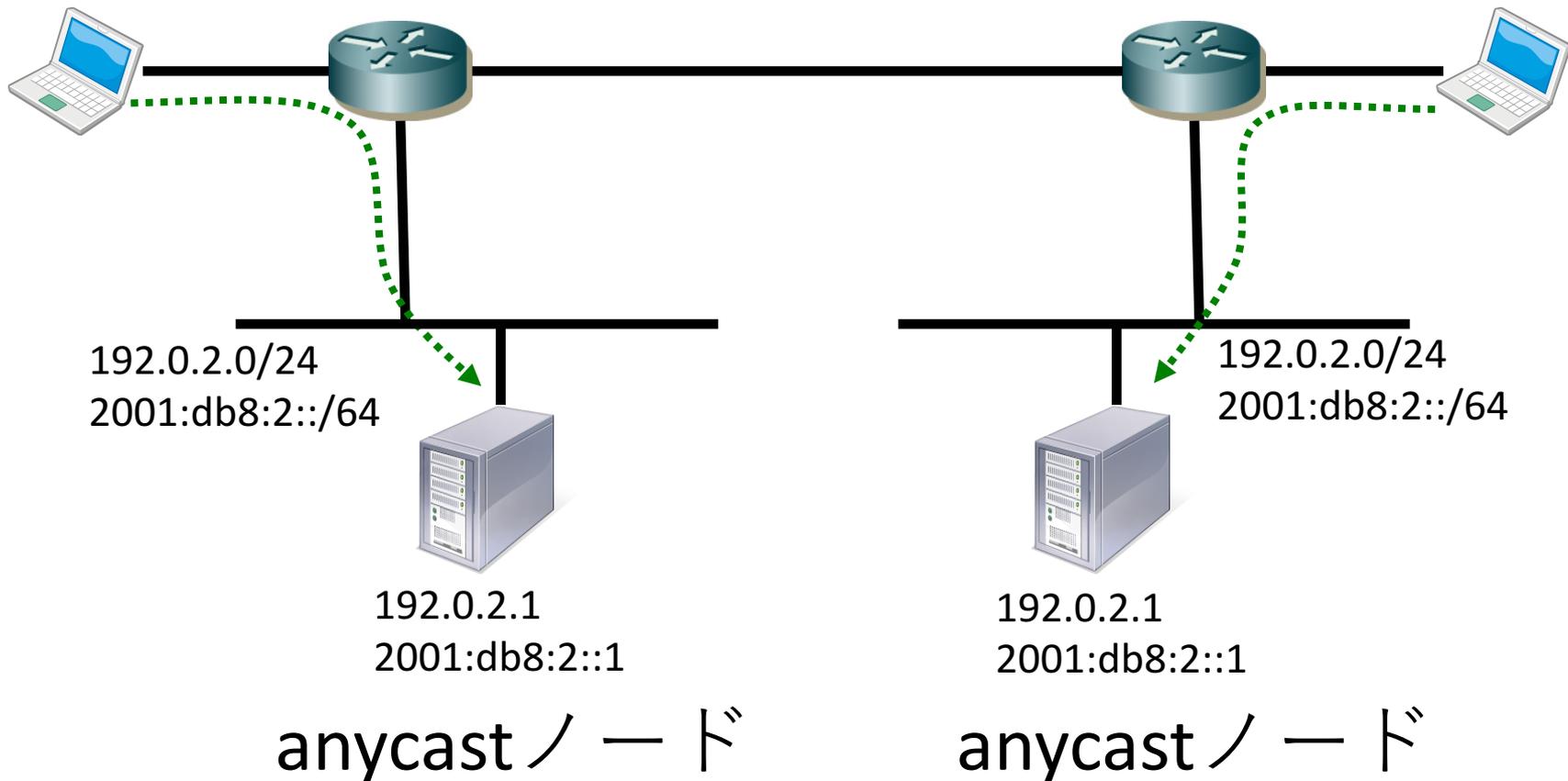
IP anycast

- 主にサーバ側で利用する技術
- 実は単なるunicast
 - 複数箇所に同じIPネットワーク
 - でも、ルータは単に宛先に投げてるだけ
 - anycastは状態だと思えるのが良いかも
- ユーザからはanycastのノード数は分からない
 - 1以上のノードが稼働していればサービスは可能

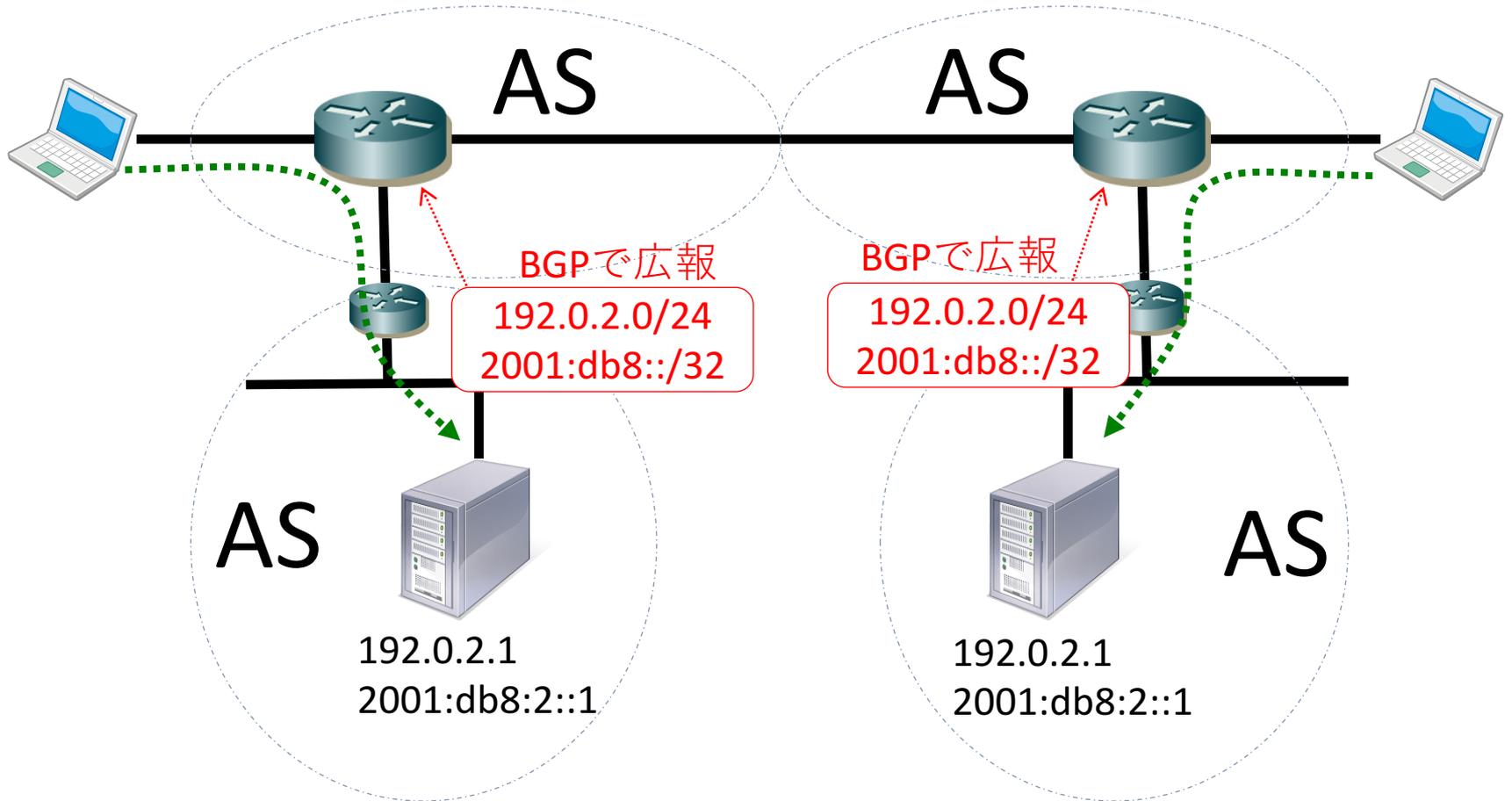
クライアントとサーバ



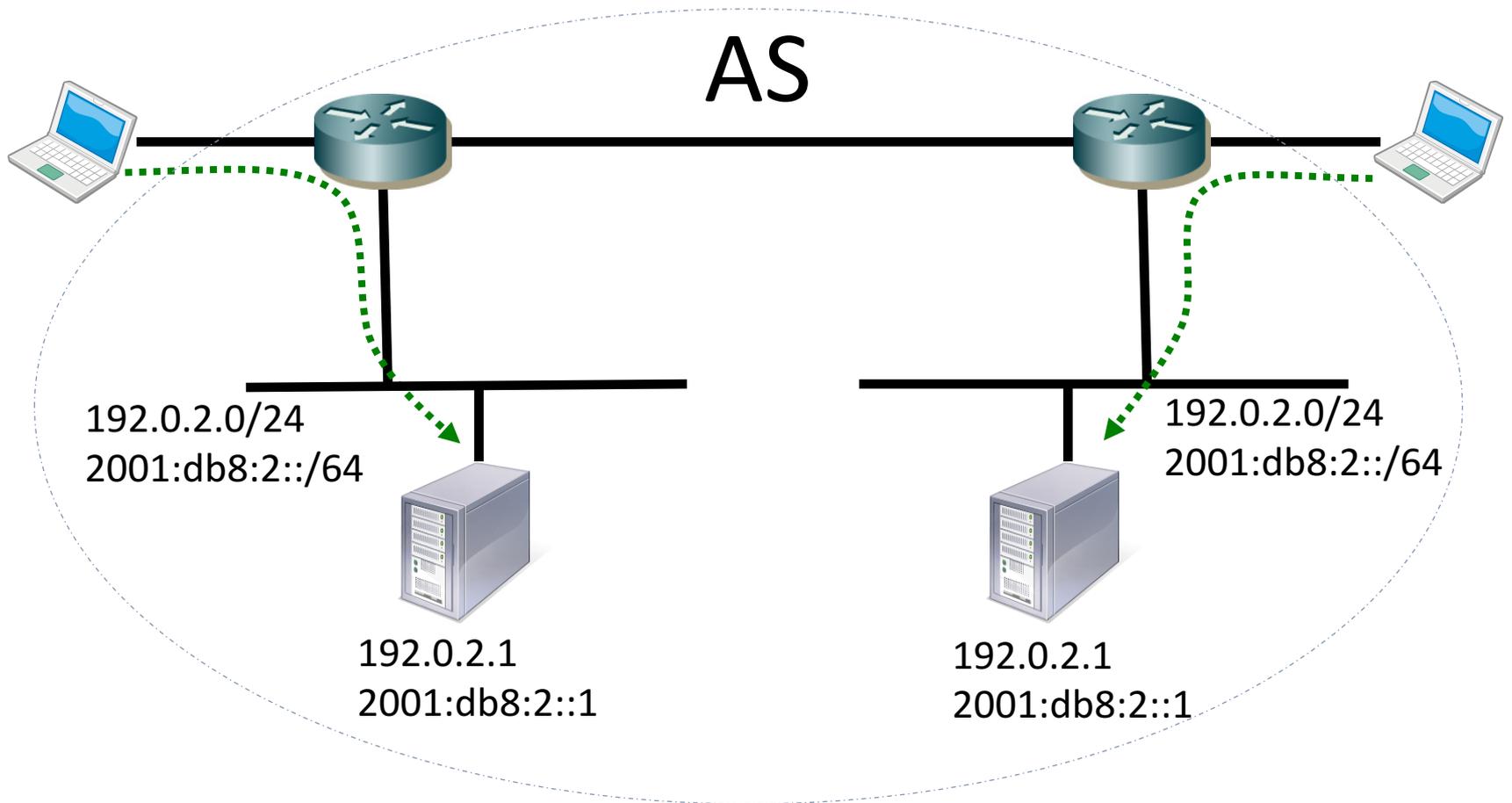
複製したら、ほらIP anycast



AS間だと、BGPで制御

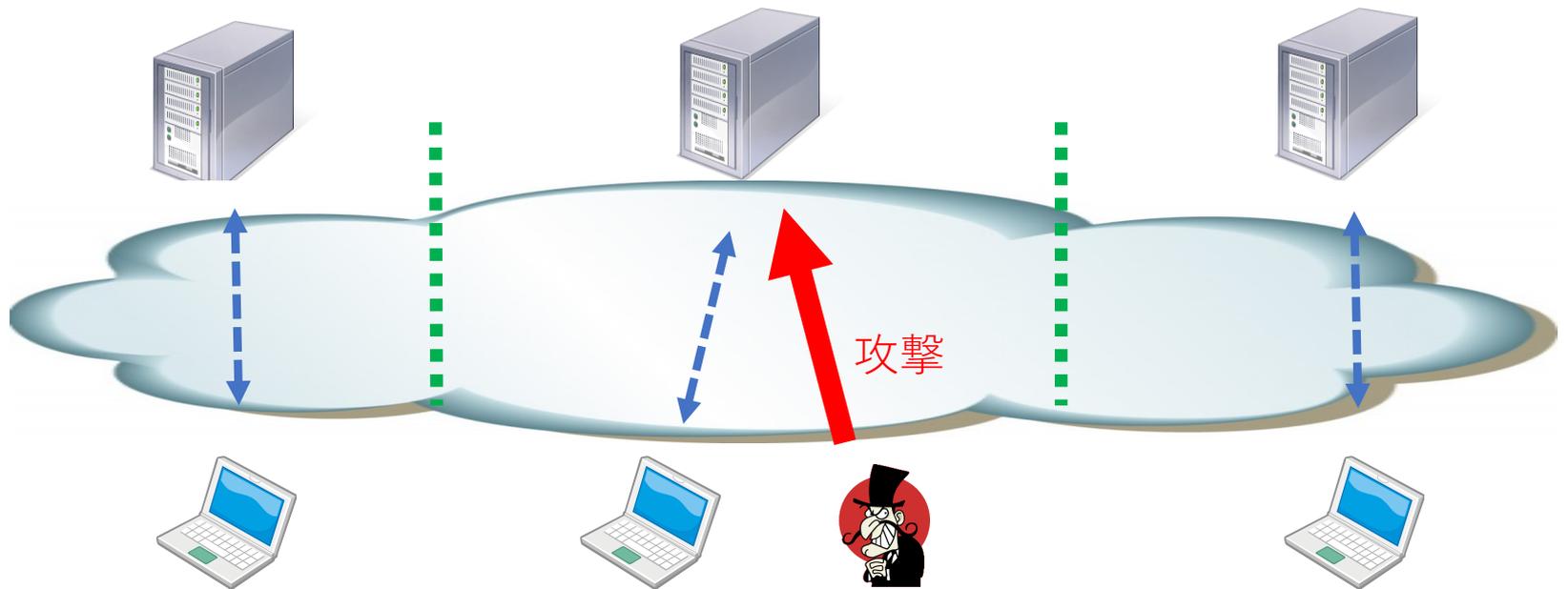


AS内だと適当に制御



IP anycastで障害の局所化

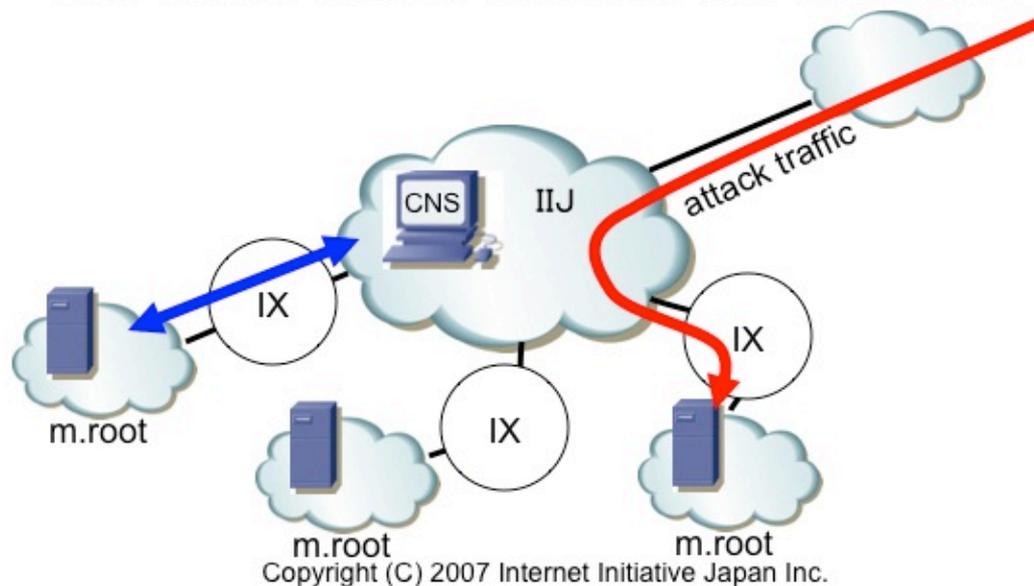
- 攻撃や障害の影響を局所化できる
 - 利用者側からはルーティングを制御できないため



2007/02/16 19:00JST~

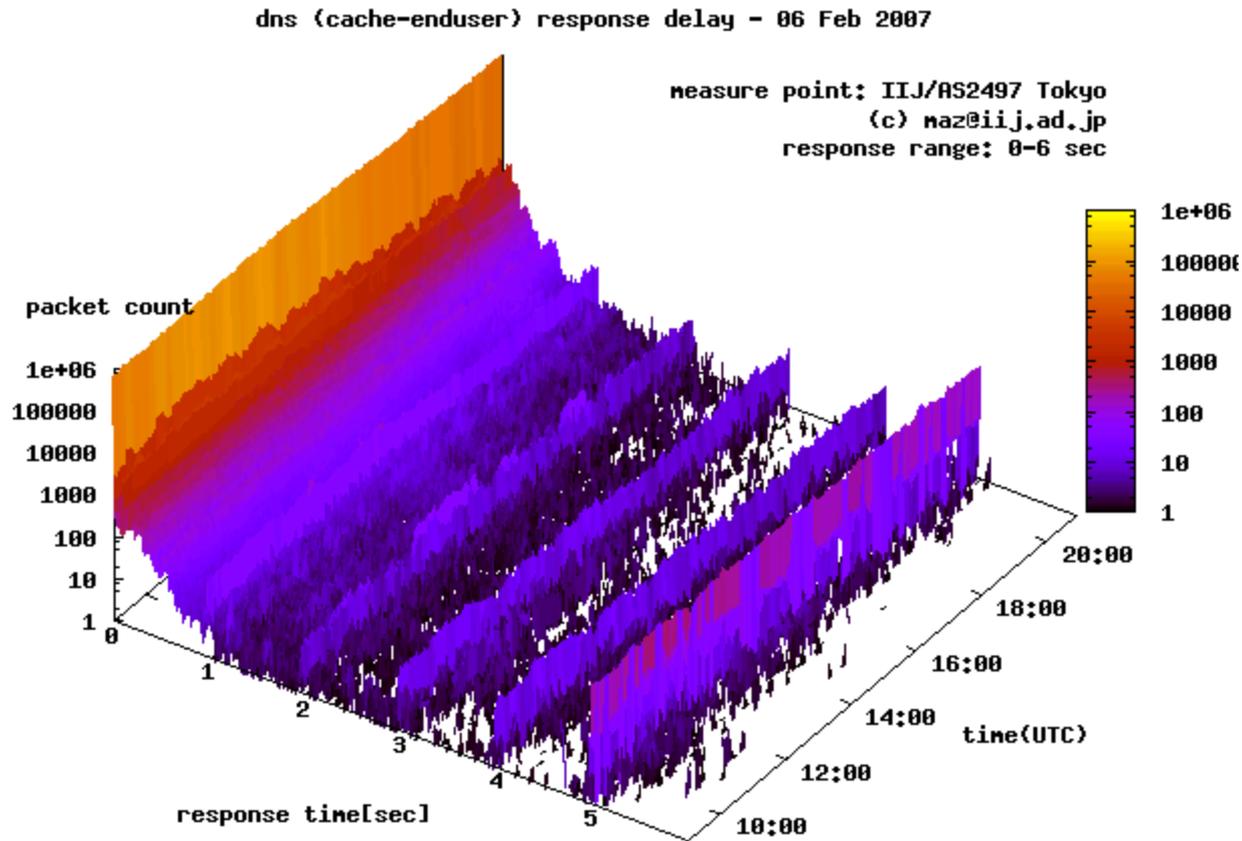
during the attack

- IIJ transited attack traffic as well...
 - IIJ's cache server selected the other site.



17

応答遅延概要



root-serversへのquery数 . . .

- 1229097 total queries
 - 1223957 invalid_TLD (99.5%)
 - 1110543 AforA (90.3%)
 - 113414 other invalid_TLD (9.2%)
 - 5140 valid_TLD(0.4%)
 - 4787 .arpa (0.3%)
 - 353 other valid_TLD(0.02%)

期間 08 Feb 2007 09:00UTC-21:00UTC

防御時にあると役立つもの

- 隣接ネットワークとの良い関係
- 性能良く、しかも細かな条件を設定できるパケットフィルタ
 - ルータなどでも可
 - 性能劣化する場合があるので要検証
- 特定の問い合わせパターンをサクッと落とせる機能とスキル
 - ipfilterでもpfでも何でも